笹田　哲（大学院保健福祉学研究科兼務）

1　著書

1)　笹田哲：作業療法 臨地実習ルートマップ（改訂第 2 版），第 2 章　臨地実習実技編　学習障害、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害の作業療法評価と治療, 306-315, メジカルビュー社. 2019.4.

2)　笹田哲：作業療法研究法（第 3 版）.第 1 章 研究とは, 第 2 章 量的研究法. 6-13. 中央法規出版社. 2019.5.

3)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 1 年. 教育出版社. 2020.3.

4)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 2 年. 教育出版社. 2020.3.

5)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 3 年. 教育出版社. 2020.3.

6)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 4 年. 教育出版社. 2020.3.

7)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 5 年. 教育出版社. 2020.3.

8)　加藤裕司, 長野秀章（監修）, 笹田哲, 荻田哲男, 清水文博 他：文部科学省検定済教科書　小学校　国語科書写 6 年. 教育出版社. 2020.3.

2　学術論文

1)　牛腸昌利，笹田哲，白濱勲二. 健常成人の運筆における上肢・体幹運動の特徴と座位姿勢条件の関連. 日本作業療法研究学会雑誌. 2019.

2)　笹田哲:通常学級での体育への支援. 作業療法ジャーナル 53(8):814-819, 2019.

3)　笹田哲:できたが増える　できる体のつくり方　ボールをとることができない. チャイルドヘルス Vol.22 No4, 55-57, 2019.

4)　笹田哲:できたが増える　できる体のつくり方　なわとびができない. チャイルドヘルス Vol.22 No5, 56-58, 2019.

5)　笹田哲：できたが増える　できる体のつくり方　ひもを結ぶことができない. チャイルドヘルス Vol.22 No6, 64-66, 2019.

6)　笹田哲：できたが増える　できる体のつくり方　キックすることができない. チャイルドヘルス Vol.22 No7, 62-64, 2019.

7)　笹田哲:できたが増える　できる体のつくり方　前転ができない. チャイルドヘルス Vol.22 No8, 62-64, 2019.

8)　笹田哲:できたが増える　できる体のつくり方　ボールをとることができない. チャイルドヘルス Vol.22 No9, 63-65, 2019.

9)　笹田哲：できたが増える　できる体のつくり方　明日から親子で取り組める

できる体のつくり方（家庭編）．チャイルドヘルス Vol.22 No10,56-58,2019.

3　学会等での活動

1）　Sho Maruyama, Satoshi Sasada, Yohei Jinbo , Peter Bontje : Development of an Evaluation of Clinical Reasoning (ECR) for occupational therapy students in Japan: Testing of content validity and face validity. The 13th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine,Koube,Japan.2019.

2）　笹田哲,池田公平,中村拓人,平野理沙：発達障害児に対する動きのピラミッド・ツールの有効性について.第 53 回日本作業療法学会(福岡市）2019.9.

3）　牛腸昌利，笹田哲．運筆における関節運動の特性と座位姿勢の影響．第 53 回日本作業療法学会(福岡市）2019.9.

4）　杉山いずみ，笹田哲．生活介護事業利用者における作業参加の特徴についてー短縮版小児作業プロフィールを使用してー．第 53 回日本作業療法学会(福岡市）2019.9.

5）　中村拓人，小田原悦子，笹田哲.Well-being をもたらす家族の作業―社会的つながりのナラティブ―．第 53 回日本作業療法学会(福岡市）2019.9.

6）　中川健太郎,池田公平,中村拓人,笹田哲．回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害患者のモチベーションの変化のプロセス．日本作業療法学会（福岡市）.2019.9.

7）　遠藤雅俊,池田公平,中村拓人,笹田哲．回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の会話活用とその意味．日本作業療法学会（福岡市）.2019.9.

8）　丸岡ちひろ,池田公平,中村拓人,笹田哲．急性期の脳血管障害に対する作業療法介入の現状―文献レビューより―．日本作業療法学会（福岡市）.2019.9.

9）　森木勇一郎,池田公平,中村拓人,笹田哲．介護老人保健施設に勤める介護職の作業療法士への認識に関する文献研究．日本作業療法学会（福岡市）.2019.9.

10）　重田優子,池田公平,中村拓人,笹田哲．「おしゃれ」というナラティブから目標を共有し行動変容に至った事例―人間作業モデルの意志の側面からの考察―．日本作業療法学会（福岡市）.2019.9.

11）　金原衣理子,笹田哲：ファッションショーを通してみられた脳血管障害者の心理・行動の変化.ヒューマンサービス研究会（横須賀市）,2020.1.

12）　池田公平，笹田哲.回復期リハビリテーション病棟入院患者に対する多職種連携実践の具体的事項．ヒューマンサービス研究会（横須賀市）,2020.1.

13）　中村拓人,笹田哲．家族実践としての家族の作業：ヒューマンサービスの視点から．ヒューマンサービス研究会（横須賀市）,2020.1.

14）　森木勇一郎,池田公平,中村拓人,笹田哲．介護老人保健施設において作業療法士が介護職と連携する為の方略．ヒューマンサービス研究会（横須賀市）,2020.1.

15）　重田優子,池田公平,中村拓人,笹田哲．「おしゃれをしたい」というナラティブを活かした訪問作業療法実践の一例-ヒューマンサービスと人間作業モデルの側面から-．ヒューマンサービス研究会（横須賀市）,2020.1.

4　学会，協会，公的団体の委員など

1）　NHK Eテレ「ストレッチマンV」番組企画委員

2）　日本作業行動学会 学術誌査読委員

3）　日本作業行動学会　理事

4）　日本発達系作業療法学会　理事

5）　日本発達系作業療法学会　学術誌査読委員

6）　日本作業療法士協会研究助成審査委員

7）　第53回日本作業療法学会　演題採択委員

8）　第53回日本作業療法学会　座長

5　学内教育活動

1）　大学院博士論文　指導教員　3名（1名修了）

2）　大学院修士論文　指導教員　3名（1名修了）

3）　学部　卒業研究　指導教員　2名

4）　学部「遊び余暇活動治療学」で地域小学校との連携授業を導入

5）　2019年オープンキャンパス入試相談、専攻説明オリエンテーション

6　学内各種委員会活動

1）　学長補佐会議

2）　総務企画委員会

3）　学科長会議

4）　教育研究審議会

5）　地域貢献研究センター運営会議

6）　研究科入試委員会

7）　研究科運営委員会

7　社会貢献

1）　横須賀市立馬堀小学校交流授業 2019.11.

2）　神奈川県立養護学校自立活動（専門職）ＯＴ部会アドバイザー2019.6.

3）　横須賀市建築審査会委員 2019.7.

4）　神奈川県立養護学校管理栄養士　講師 2017.12.

9　講演，放送

1）　ヒューマンサービス公開講座.「3，4，5歳の子どものできた！が増える体・指

先の指導アラカルト」．神奈川県立保健福祉大学，2019．10．5．

森田　千晶（大学院保健福祉学研究科兼務）

3　その他の著作

1）三輪書店　国家試験模擬試験問題作成 8 件

4　学会等での活動

1）ISPO17th world Congress Free Paper Session: Prosthetics-Upper Limb-Control Session Chair 5th Oct 2019

2）第 35 回日本義肢装具学会学術大会　教育講演 5「生活を豊かにするための義肢装具」演者 2019 年 7 月

3）第 35 回日本義肢装具学会学術大会　一般口演「上肢切断・義手」座長　2019 年 7 月

5　学会，協会，公的団体の委員など

1）日本リハビリテーション工学協会：福祉機器コンテスト選考委員

2）日本リハビリテーション工学協会：理事

6　学内教育活動

1）「作業療法学概論」1 年次；作業療法の概要を日本作業療法士協会の紹介動画などを用い、具体的にわかりやすく教授する努力をした。また、障害当事者をゲストスピーカーとして招き、生活や障害のことを直接聞くことによってアーリーエクスポージャーの場を提供した。

2）「研究法概論」3 年次:4 年で行う卒業研究を具体的にイメージできる授業を心掛け、研究法の基本を教授するとともに卒業生の卒業研究論文、作業療法関連雑誌等に掲載されている論文を提示し、学生同士で議論する時間を設けアクティブラーニングを試みた。

7　学内各種委員会活動

1）広報委員会

2）地域貢献センター国際協働部門　部門長

8　社会貢献

1）オープンキャンパス

2）高校教員対象入試説明会

3）高校出張授業

12　受賞

1）神奈川県作業療法士会　功労表彰（2019 年 5 月 16 日）

14　その他

1）乗馬リハビリテーション勉強会事務局
2）NPO 法人　人と馬のリハ日テーションセンター　理事
3）Assessment of Capacity for Myoelectric Control （筋電義手アセスメント認定）2020 年 1 月 20 日

奥原　孝幸（大学院保健福祉学研究科兼務）

1　著書

1）　精神機能作業療法学第 3 版（標準作業療法学専門分野）、新宮尚人編集、苅山和生・新宮尚人・四本かやの・大野宏明・奥原孝幸他 14 名、医学書院、令和 2 年 3 月

2　学術論文

1）　成人期 ADHD(注意欠如多動性障害）を対象とした心理社会的プログラムの評価―参加者の語りからの分析―、水野健・奥原孝幸、神奈川県立保健福祉大学誌 17（1)、令和 2 年 3 月

2）　自殺予防に向けた作業療法に関する文献検討、小砂哲太郎・水野健・奥原孝幸、神奈川県立保健福祉大学誌 17（1)、令和 2 年 3 月

3　その他の著作

1）　アルコール依存症に関する「専門教育」の 実情調査（文献研究） 報告書 「作業療法士」、小砂哲太郎・金子史子・佐藤嘉孝・奥原孝幸・遠藤大介・中道 恵、厚生労働省アルコール依存症専門職種養成調査文書、令和 2 年 3 月

4　学会等での活動

1）　集団認知行動療法プログラムの作り方と進め方～心理教育や SST をグループで実施する良さ～、単独、横浜ＣＢＴに集う会、令和元年 5 月

2）　自殺予防に向けた作業療法に関する文献検討、小砂哲太郎・水野健・奥原孝幸、17 回神奈川県作業療法学会、令和元年 7 月最優秀演題賞

3）　医療観察法病棟における WRAP プログラム参加による影響、立山和久・奥原孝幸・中道恵 ・三澤剛、第 53 回日本作業療法学会、令和元年 9 月

4）　60 歳代後半の老年期うつ病患者の一例　入院治療を通してみた回復過程、嘉部 匡朗・大野 実里・藤野 尚子・富岡 大・奥原 孝幸、第 53 回日本作業療法学会、令和元年 9 月

5　学会，協会，公的団体の委員など

1）　神奈川県作業療法士会理事

2）　日本作業療法士協会教育部、制度対策部部員

3）　横浜ＣＢＴに集う会代表

6　学内教育活動

1）　チューター会委員

2）　ＦＤ研修参加等

7　学内各種委員会活動

1）　人権・倫理委員会

2）　自己評価専門部会

8　社会貢献

1）　横須賀市自殺対策協議会構成員（副座長）

9　講演，放送

1）　講演「作業療法生涯教育概論」、単独、神奈川県作業療法士会現職者共通研修、令和元年 10 月

2）　講演「職業倫理」、単独、神奈川県作業療法士会現職者共通研修、令和元年 12 月

3）　臨床実習指導者講習会世話人（講師）、神奈川県作業療法士会臨床実習指導者講習会世話人（講師）、令和元年 12 月、令和 2 年 1 月

12　受賞

1）　第 17 回神奈川県作業療法学会最優秀演題賞「自殺予防に向けた作業療法に関する文献検討」、神奈川県作業療法士会、令和元年 7 月

14　その他

1）　アルコール依存症に関する「専門教育」の 実情調査（文献研究） 報告書 「作業療法士」、厚生労働省アルコール依存症専門職種養成調査文書、小砂哲太郎・金子史子・佐藤嘉孝・奥原孝幸・遠藤大介・中道 恵、令和 2 年 3 月

玉垣　努（大学院保健福祉学研究科兼務）

1　著書

1)　菊池恵美子　編集「OT 臨地実習ルートマップ：動作・作業分析と事例（玉垣努）：頸髄損傷（玉垣努)」メジカルビューティー社, 2019 年 4 月 1 日.
2)　玉垣努「スポーツが持つ可能性：作業療法ジャーナル」三輪書店,2019 年 7 月 20 日.
3)　平田学　編集「移動・移乗技術トレーニング」中央法規,2019 年 8 月 30 日.

4　学会等での活動

1)　脊髄損傷作業療法研究会にて講習会実施
2)　第 34 回リハ工学カンファレンス in サッポロでの発表
3)　第 17 回神奈川県作業療法学会　2019 年 7 月 21 日（日）開催　メルパルク横浜
4)　インクルーシブ・デザイン・ラボ プロジェクトキックオフセミナー発表
5)　黒澤千尋，玉垣努，米津亮，白濱勲二，髙木峰子，小池友佳子．地域在住自立高齢者における運動および認知機能の調査（第 1 報）．学内研究発表会　2019 年 7 月 3 日

5　学会，協会，公的団体の委員など

1)　令和元年度 介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会
2)　神奈川リハビリテーション事業団評議委員
3)　令和元年度ロボット介護機器開発・標準化事業　排泄支援（トイレ）機器分科会
4)　令和元年度ロボット介護機器開発・標準化事業　排泄支援（排泄動作支援）分科会
5)　障害者自立支援機器導入好事例普及事業好事例選考委員会
6)　ヨスカ×スマートモビリティ・チャレンジ推進協議会
7)　インクルーシブ・デザイン・ラボ プロジェクトの研究開始及び参加

6　学内教育活動

1)　臨床指導者会議の運営を実施した
2)　３年生対象に実習に向けての身体障害領域の特別講義４日各２コマ実施した
3)　実際の頸髄損傷患者さんを見たことのない学生のために、臨床でのビデオを編集し講義の資料を作成
4)　身体障害作業療法演習において客観的臨床テスト（オスキー）を実施
5)　実際の患者さんを見たことのない学生のために、日常生活援助論において頸髄損傷者及び脳卒中者を招聘し、実践的な教育を実施した

7　学内各種委員会活動

1)　ミニオープンキャンパスを実施
2)　全ての入試試験において面接官担当
3)　オープンキャンパス参加
4)　動物実験委員会

5)　時間割ワーキング委員会

8　社会貢献

1)　県大卒業生および近隣の PT,OT 対象の「よこすかＯＴ勉強会」1 回／月の計 10 回
2)　神奈川リハセンター　評議委員として評議委員会に出席した　2019 年 6 月 26 日
3)　インクルーシブ・デザイン・ラボ プロジェクトキックオフセミナーにおいて講演 2020 年 1 月 9 日
4)　日本チェアスキー協会主催指導員講習会にて、身体障害者スキーヤーに対する動作分析 2019 年 12 月 20,21,22 日
5)　日本チェアスキー協会主催チェアスキー大会にて、身体障害者スキーヤーに対するボランティア 2020 年 2 月 20,21,22,23 日

9　講演，放送

1)　神奈川リハ地域支援センター主催講習会にてハンドリング入門の講師をつとめた 2019 年 5 月 11 日.
2)　『環境適応講習会』受講生 120 名に対して食事動作についての講義および実技を実施した　2019 年 7 月 13,14 日
3)　神奈川リハ地域支援センター主催「土曜日研修」において講師をつとめた　2019 年 8 月 17 日.
4)　脊損作業療法研究会において講師をつとめた　2019 年 10 月 26,27 日.
5)　ハンドリング研究会にて講義および実技を実施した 2019 年 11 月 4 日.
6)　Laugh 講習会を尼崎にて「臨床で役立つ動作分析方法～生態心理学的視点を加えて～」のテーマで 2019 年 11 月 24 日実施
7)　神奈川県活動分析研究会の研修会参加　2019 年 12 月 7,8 日.
8)　穴吹リハビリテーション学院において「脊損のリハビリテーション」の講師をつとめた　2020 年 1 月 10,11 日.
9)　マークスター講習会を上大岡にて「臨床で役立つ動作分析方法～生態心理学的視点を加えて～」のテーマで　2020 年 2 月 16 日実施

白濱　勲二（大学院保健福祉学研究科兼務）

2　学術論文

1)　Kunji Shirahama : A Survey on Rehabilitation Assessment and Interventions to Treat Impairments of the Upper Extremity after Stroke in Japan. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology Vol.67 (3), Page206-216. 2019.

2)　廣瀬 卓哉, 児玉 三彦, 高橋 真須美, 室伏 未知花, 白濱 勲二 : 作業遂行技能の評価と生理学的な評価を併用し,行動変容を促した呼吸器疾患の 1 例. 作業療法ジャーナル 53 巻 11 号 Page1191-1194. 2019.

4　学会等での活動

1)　白濱勲二、安田大典：神奈川県内高校生の医療福祉職の認知度、職業選択、作業療法のイメージに関する実態調査. 神奈川県立保健福祉大学誌.2020.

2)　白濱勲二. 黒澤千尋, 安田大典：地域在住高齢者の身体・認知機能と生活機能に関する調査研究. 2019 年　第 52 回日本作業療法学会（福岡）.

3)　三原菜津子, 札野　優, 飯田優也, 白濱勲二：回復期リハビリテーション病棟における大腿骨頚部骨折の ADL 改善に影響する因子の検討. 2019 年　第 52 回日本作業療法学会（福岡）.

4)　林　慎也. 白濱勲二, 笹田　哲：在宅脳卒中片麻痺者における麻痺手の使用頻度と健康統制感の関連. 2019 年　第 52 回日本作業療法学会（福岡）.

5)　木村亮太. 白濱勲二：橈骨遠位端骨折症例に対する Stress Loading Program の有効性に関する検討：2 症例の介入を通して. 2019 年　第 13 回日本作業療法研究学会（鹿児島）

5　学会, 協会, 公的団体の委員など

1) 白濱勲二. 日本作業療法学会　演題査読委員
2) 白濱勲二. 日本作業療法学会　事例報告登録制度審査委員（A 審査）
3) 白濱勲二. 日本作業療法研究学会雑誌　編集同人
4) 白濱勲二. 三浦半島作業療法研究会　理事
5) 白濱勲二. 日本作業療法研究学会　理事
6) 白濱勲二. 第 53 回日本作業療法学会　演題査読
7) 白濱勲二. 第 53 回日本作業療法学会　口述発表座長

6　学内教育活動

1) 白濱勲二. 学部担当科目等の視聴覚教材製作
2) 白濱勲二. 学部卒業研究指導
3) 白濱勲二. 保健学研究科における講義、演習、研究指導。
4) 白濱勲二. 博士課程前期・後期　大学院生の教育・研究指導

7　学内各種委員会活動

1）　入試委員会　2019 年 4 月～現在

8　社会貢献

1) 白濱勲二．オープンキャンパスでの入試相談 2019.8.10-11

2) 白濱勲二．三浦半島作業療法研究会　第 52～55 回研修会　企画運営・実施.

3) 白濱勲二．　横須賀市社会福祉協議会　高齢者身体測定会　2019.10.26

長山 洋史（大学院保健福祉学研究科兼務）

2　学術論文

1）Saito Yuki, Tomori Kounosuke, Nagayama Hirofumi, Sawadai Tatsunori, Kikuchi Emiko. Differences in the occupational therapy goals of clients and therapists affect the outcomes of patients in subacute rehabilitation wards: a case-control study .Journal of Physical Therapy Science 31(7) 521 - 525 2019 年

4　学会等での活動

1）長山洋史，友利幸之介 ，池田公平，武田大勢，新美彩花：脳血管障害者に対する回復期リハビリテーション病棟でのリハ密度と退院後医療費との関連―レセプトデータを用いた回帰不連続デザインによる検証―．第 3 回臨床疫学会．2019 年 9 月

2）萩原祐，丸山祥，長山洋史．脳卒中重度上肢麻痺患者に対する課題指向型アプローチにおける治療戦略 熟達者へのインタビューを通した質的分析．第 53 回日本作業療法学会．2019 年 9 月

3）齋藤佑樹，友利幸之介，長山洋史．回復期リハビリテーション病棟におけるクライエントと作業療法士の目標一致度が入院日数に与える影響の検討．第 53 回日本作業療法．2019 年 9 月

4）齋藤佑樹,友利幸之介,長山洋史．回復期リハビリテーション病棟における目標の一致度と退院時アウトカムの関係．第 6 回日本臨床作業療法学会　2019 年 5 月

5　学会，協会，公的団体の委員など

1）日本臨床作業療法学会誌　論文査読委員

2）日本作業療法士協会　組織的学術研究体制ワーキンググループ　委員

3）日本作業療法学会　演題査読委員

4）慶應義塾大学 SFC 研究所　上席所員

6　学内教育活動

1）身体機能評価学Ⅰ　科目責任者

2）身体機能評価学Ⅱ　科目責任者

3）評価学演習　科目責任者

4）運動学　科目責任者

5）作業療法概論

6）地域作業療法学

7）日常生活活動論

8）研究法

9）機能障害作業療法学

10）機能障害作業療法学演習

7　学内各種委員会活動

1）教務委員会

2）新カリキュラム編成ワーキング

8　社会貢献

1）Health and Quality of Life, Topics in Stroke Rehabilitation, Disability and Rehabilitation, Health Service Research, Archives of physical medicine and rehabilitation, Risk Management and Healthcare Policy など国際紙査読

9　講演，放送

1）第2回作業療法実践の質を高める研究法セミナー【アドバンスコース】 講師

10　科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

1）科学研究費補助金　若手研究　研究代表者

2）科学研究費補助金　基盤研究C　分担研究者

小河原　格也（大学院保健福祉学研究科兼務）

2　学術論文

1）城川美佳，大島憲子，小河原格也，畑中高子，山本妙子，生田倫子，杉山みち子，金龍哲．(2020)．保健・医療・福祉分野の大学生における地域貢献活動への参加状況と同活動参加への支援ニーズ．神奈川県立保健福祉大学誌，17(1)，129-138.

4　学会等での活動

1）小河原格也，阿瀬川孝治，玉井秀直，岡田誠：認知症の人にやさしい地域・社会の実現に向けて．第 53 回日本作業療法学会，2019.

2）丹羽幸子，山本浩暉，小塚良，小河原格也：10 年の閉じこもり状態から通所サービス利用継続に至った事例-訪問リハビリテーションをきっかけとして-，2019.

3）三浦満世，小河原格也，丹羽幸子：認知症高齢者の不安や焦燥が軽減した一例-本人が大切にしてきた作業を用いて-，2019.

4）座長：第 53 回日本作業療法学会 一般演題（口述）セッション高齢期 3，2019.

5　学会，協会，公的団体の委員など

1）神奈川県作業療法士会 代議員

2）日本作業療法士協会事例登録 審査委員

3）日本臨床作業療法研究　査読委員

4）三浦市地域包括支援センター運営懇談会　構成員

6　学内教育活動

1）老年期作業療法学，老年期作業療法学演習 科目責任者

2）地域作業療法学，地域作業療法学演習　科目責任者

3）学部担当科目（一部担当）
作業療法概論，評価学概論，運動学，作業運動学，遊び・余暇活動治療学，作業療法理論，卒業研究，地域理学療法学，在宅看護学

4）大学院担当科目（一部担当）
機能障害作業療法学，機能障害作業療法演習

5）学部卒業研究指導（3 年生 3 名，4 年生 3 名）

6）大学院副指導教員（1 名）

7　学内各種委員会活動

1）地域貢献研究センター　地域貢献部門委員

2）作業療法学専攻 1 年生担任

3）チューター担当

4）windsurfing サークル顧問

5）SPOT サークル顧問

8　社会貢献

1)　グループホームいずみ運営推進会議　構成員
2)　小規模多機能なかよし運営推進会議　構成員
3)　RUN 伴＋三浦半島
4)　認知症フレンドリーよこすか
5)　オープンキャンパス

9　講演，放送

1)　横須賀市 地域型介護予防サポーター養成講座．主催：西第一地域包括支援センター（2019.5.20，5.27，6.3）
2)　平作カフェ健康教室講師．主催：グループホームいずみ（2019.7.25）
3)　オープンカレッジ教養講座「高齢社会を生き抜く」自分史を書こう．ズシップ（2019.11.18，12.2，12.16，2020.1.27，2.17）

10　科学研究費補助金，その他の補助金などの受託

1)　科学研究費補助金・若手研究 B（2016 年度～2020 年度）
「運動学習における脳内活動の縦断的変化と補助手段活用による促進効果の検証」
2)　科学研究費補助金・若手研究（2019 年度～2022 年度）
「高齢者の運動学習における脳内活動の縦断的変化と補助手段活用による促進効果の検証

池田　公平

2　学術論文

1) 池田公平,笹田哲.回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の主観的経験が作業に及ぼす影響.作業療法,2020.(in press)
2) 池田公平,笹田哲.回復期リハビリテーション病棟に勤務する専門職の team work に関する文献研究.日本作業療法研究学会誌.(in press)
3) 池田公平,笹田哲.回復期リハビリテーション病棟入院患者の「している ADL」を増進させるための Interprofessional Collaborative Practice(IPCP)の具体的な内容の可視化.日本作業療法研究学会誌.（under review）

3　その他の著作

1) 池田公平，笹田哲．回復期リハビリテーション病棟入院患者に対する多職種連携実践の具体的事項．ヒューマンサービス研究会,2019,1,31.

4　学会等での活動

1) 池田公平,笹田哲.回復期病棟に勤務するリハビリテーション専門職の連携に関する文献研究-現状と課題-.日本作業療法学会（福岡）.2019.9.8.
2) 長山洋史,友利幸之介,池田公平,武田大勢,新見彩花.脳血管障害患者に対する回復期リハビリテーション病棟でのリハ密度と退院後医療費との関連-レセプトデータを用いた回帰不連続デザインによる検証-.第 3 回日本臨床疫学会第 3 回年次学術大会（福岡）.2019.9.28.
3) 中川健太郎,池田公平,中村拓人,笹田哲．回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害患者のモチベーションの変化のプロセス．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.6.
4) 遠藤雅俊,池田公平,中村拓人,笹田哲．回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の会話活用とその意味．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.6.
5) 丸岡ちひろ,池田公平,中村拓人,笹田哲．急性期の脳血管障害に対する作業療法介入の現状―文献レビューより―．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.6.
6) 笹田哲,池田公平,中村拓人,平野理沙．発達障害児に対する動きのピラミッド・ツールの有効性について．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.7.
7) 森木勇一郎,池田公平,中村拓人,笹田哲．介護老人保健施設に勤める介護職の作業療法士への認識に関する文献研究．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.7.
8) 重田優子,池田公平,中村拓人,笹田哲．「おしゃれ」というナラティブから目標を共有し行動変容に至った事例―人間作業モデルの意志の側面からの考察―．日本作業療法学会（福岡）.2019.9.6.

5　学会，協会，公的団体の委員など

1) 神奈川県作業療法士会　事務局

2) 神奈川県作業療法士会　選挙管理委員会　選挙管理委員長

6　学内教育活動

1) 評価学概論　科目責任者
2) 臨床作業療法学実習　科目責任者
3) 総合臨床実習Ⅱ　科目責任者
4) 身体機能評価学Ⅰ　15 コマ
5) 身体機能評価学Ⅱ　15 コマ
6) 評価学演習　15 コマ
7) 作業療法概論　1 コマ
8) 作業療法管理運営　1 コマ
9) 老年期作業療法学演習（レク実習補助）
10) 身体障害作業療法学演習（試験補助）
11) 解剖学実習Ⅱ（引率）
12) 保健医療福祉論Ⅰ（引率）
13) ヒューマンサービス論Ⅱ（補助）
14) 評価学実習、総合臨床実習Ⅰにおける各サポート

7　学内各種委員会活動

1) 図書委員会

8　社会貢献

1) オープキャンパス（運営補助）
2) 医療法人横浜柏提会よこすか浦賀病院（非常勤）

11　学内研究助成金の受託

1) 研究助成Ｂ（奨励研究）,課題名:回復期リハビリテーション病棟に勤務するリハビリテーション専門職の連携のための Team work 評価尺度の開発

杉村　直哉

2　学術論文

1) 杉村直哉，丹治梓，高橋健，武井勇樹，廣尚典（2020）．うつ病の職場復帰判断におけるブルドン抹消検査の臨床的有用性．日本うつ病リワーク協会誌（印刷中）．
2) Takeshi Shimada, Manami Ohori, Yusuke Inagaki , Yuko Shimooka, Ikuyo Ishihara, Naoya Sugimura, Sachie Tanaka, Masayoshi Kobayashi（2019）. Effect of adding individualized occupational therapy to standard care on rehospitalization of patients with schizophrenia: A 2 - year prospective cohort study. Psychiatry and Clinical Neurosciences 73(8) 476-485.

4　学会等での活動

1) 武井勇樹，高橋健，京極明季，糠信ひなた，杉村直哉：リワークプログラムにおける運動プログラムの実践．第 3 回日本うつ病作業療法研究会（大阪）
2) 杉村直哉，高橋健，武井勇樹，木村真実，京極明季，糠信ひなた，堀江祐介：リワークプログラム実施期間と就労継続の関連 ～単一医療施設における後ろ向きコホート～．第 3 回日本うつ病リワーク協会年次大会（山梨）

5　学会，協会，公的団体の委員など

1) ネットワーク：信州精神科作業療法研究会メーリングリスト 管理者
2) 学会：第 3 回日本うつ病リワーク協会年次大会 運営委員
3) 委員：神奈川県作業療法士会 教育部

6　学内教育活動

1) 授業関連

【科目責任】

・基礎作業学実習（1 年次）：
基礎作業種目について，作業療法の臨床に適合させるため，教示するアクティビテイをこれまでの 2 種目から 3 種目に増やし，当科目にかかわる国家試験問題を学習早期から意識づけるよう資料を作成する等の工夫をした．

【卒業研究】

4 年生 1 名,3 年生 1 名を担当し，基本的な統計処理の教示，論文指導を行った．

【一部担当科目】

・作業療法学概論(1 年次):精神障害作業療法の歴史
・精神機能評価学(2 年次):ICF について
・感覚運動アプローチ論(3 年次):精神障害へのアプローチ
・精神障害作業療法学演習(3 年次):精神科デイケア
・身体障害作業療法学演習(3 年次):OSCE 補助
・遊び余暇活動治療学(3 年次):リラクセーション法

・産業リハビリテーション特論(3 年次):産業精神保健，ストレスチェック
・就業援助論(3 年次):気分障害の復職支援
・評価法概論(1 年次):作業面接について
・作業療法運営管理(4 年次):管理運営,国家試験
・臨床作業療法学実習(3 年次):精神科 OSCE マニュアルと試験問題を作成

【その他】
・評価学実習Ⅱ(3 年次):施設担当，実習地訪問
・総合臨床実習Ⅱ(4 年次):施設担当，実習地訪問
・総合臨床実習Ⅰ(3 年次):施設担当，実習地訪問

2) 国家試験対策係
国家試験に関する情報整理やオリエンテーション, 模試試験のセッティングと結果集計・分析など国家試験に係る業務

3) 臨床実習に係る業務（学生支援，実習関連書類作成，等）
実習地や実習センターとの調整, 学生に対するオリエンテーションの実施, 資料作成, 発送，指導者会議のセッティングなど臨床実習に係る業務

4) 就職支援に関連する業務
就職履歴書指導，小論文指導，面接指導など就職支援に係る業務

5) オープンキャンパス関連
ミニオープンキャンパス担当（10/5）
・模擬授業「精神障がいと認知機能リハビリテーション」
・専攻体験「相手を理解するとは？ ～作業療法の技と心～」
オープンキャンパス担当（8/10）

7 学内各種委員会活動
1) 実習センター運営委員会
2) 入試関連業務
特別推薦入学試験（11/23）
センター試験（1/18）
一般選抜入学試験（2/25）

8 社会貢献
1) 研究指導：非常勤勤務する医療施設において研究指導を実施（通年）
2) 講師：横須賀市の精神科クリニックにおいて，リワークプログラムに関する院内勉強会の講師と実践のためのアフターフォローを実施（2020 年 3 月）

11 学内研究助成金の受託
1) 神奈川県立保健福祉大学 学長推薦研究費．研究期間 2018.7～2020.3．交付金額 450 千円．
2) 神奈川県立保健福祉大学 研究助成 B．研究期間 2019.5～2022.3．交付金額 378 千円．

14　その他

1)　うつ病リワーク協会 専門コース修了 スタッフ認定取得

中村　拓人

3　その他の著作

1) 家族実践としての家族の作業：ヒューマンサービスの視点から．中村 拓人，笹田 哲．ヒューマンサービス研究 9 2019. P.23-24.
2) 介護老人保健施設での作業療法士と介護職の連携要素の分析．森木 勇一郎，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．ヒューマンサービス研究 9 2019. P.25-26.
3) ヒューマンサービス と人間作業モデルの視点を生かした支援-利用者のナラティブを活かした訪問リハビリテーションの一事例から-重田 優子，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．ヒューマンサービス研究 9 2019. P.31-32.

4　学会等での活動

1) Well-being をもたらす家族の作業 社会的つながりのナラティブ．中村 拓人，小田原 悦子，笹田 哲.日本作業療法学会抄録集 53 回 PI - 1E02 2019 年 9 月
2) 介護老人保健施設に勤める介護職の作業療法士への認識に関する文献研究．森木 勇一郎，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．日本作業療法学会抄録集 53 回 PJ - 2E02 2019 年 9 月
3) 「おしゃれ」というナラティブから目標を共有し行動変容に至った事例 人間作業モデルの意志の側面からの考察．重田 優子，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲.日本作業療法学会抄録集 53 回 PN - 1D04 2019 年 9 月
4) 発達障害児に対する動きのピラミッド・ツールの有効性について．笹田 哲，池田 公平，中村 拓人，平野 理沙．日本作業療法学会抄録集 53 回 PI - 2B04 2019 年 9 月
5) 回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の会話活用とその意味．遠藤 雅俊，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．日本作業療法学会抄録集 53 回 PA - 1D03 2019 年 9 月
6) 急性期の脳血管障害に対する作業療法介入の現状 文献レビューより．丸岡 ちひろ，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．日本作業療法学会抄録集 53 回 PA - 1D16 2019 年 9 月
7) 回復期リハビリテーション病棟における脳血管障害患者のモチベーションの変化のプロセス．中川 健太郎，池田 公平，中村 拓人，笹田 哲．日本作業療法学会抄録集 53 回 PA - 1C10 2019 年 9 月

9) 第 6 回ヒューマンサービス研究会(2020 年 1 月 31 日）にてポスター発表(筆頭著者 1 本，共著 2 本)を行いシンポジウムにてパネリストとして登壇した．

5　学会，協会，公的団体の委員など

1) 作業科学研究会 国際交流部員として文献翻訳などの活動を行う（通年）

6　学内教育活動

1) 「作業適用学」で科目責任者を務める（通年）．新入生が作業療法に対する具体的な

イメージを持つことができるよう，講義だけではなく、視聴覚教材や，ワークショップ形式も採用した。また専攻教員に協力を求め，グループに別れて事例を検討する問題解決型の事業を行った．

2) 「総合臨床実習Ⅱ」で科目責任者を務める（通年）．初めて総合臨床実習であるため，オリエンテーションを事前に実施した．また実習終了後にはセミナーを企画していたが，新型コロナウィルスの影響で中止となったため，事例のレポートを作成させ，振り返りを行なった．
3) 「評価学概論」では「QOL・役割・興味の評価」の会を担当した（2020 年 1 月 27 日）．
4) 「発達系評価学」に補助として講義に参加し,およそ半分程度の講義を受け持つ.どちらの科目でも，実際の子どもの様子や作業療法場面を視聴覚教材を豊富に併用して，学生の理解を促した（通年）．
5) 「発達障害作業療法学」に補助として講義に参加し,およそ半分以上の講義を受け持つ.どちらの科目でも，実際の子どもの様子や作業療法場面を視聴覚教材を豊富に併用して，学生の理解を促した（通年）．
6) 「発達障害作業療法学演習」は補助教員として全ての講義に参加（通年）．
7) 「遊び余暇活動治療学」ではおよそ 3 分の 1 程度の授業を担当する（通年).
8) 「地域作業療法学」で講義を担当する．(2019 年 4 月 26 日）
9) 「感覚運動アプローチ論」で講義を 2 回担当し（2019 年 4 月 18 日，5 月 9 日），補助教員としても一部の授業に参加する．
10) 「作業療法研究法」(2019 年 11 月 18 日）では質的研究の講義を担当した．
11) 「臨床作業用法学演習」では，実技試験（OSCE)（2019 年 12 月 12 日）　を担当した．
12) 「作業療法管理運営」では講義（2019 年 10 月 29 日）を担当した．
13) 「作業療法理論」では講義（2019 年 7 月 9 日）を担当し，一部の授業に補助教員として参加する．
14) 「ヒューマンサービス演習」では半分程度の授業に補助教員として参加

7　学内各種委員会活動

1) 学生委員会（通年），進路指導ワーキンググループ（通年），自己評価委員会（通年）に所属し，活動を行う．
2) 専攻では，評価学実習や総合臨床実習に関する書類のやりとりや，そのほか雑務を他の助教と仕事を分担しながら執り行った（通年）
3) オープンキャンパス，センター試験，推薦入試など，入試業務や学内行事に参加（通年）

8　社会貢献

1) 発達障害児に関わる支援者を対象とした「気になる子どもの学習と生活研究会」の運営（2019 年 10 月 27 日）を行う．
2) 子どもと家族を対象とした「体の使い方教室」の運営（2019 年 4 月 21 日,5 月 19 日,

9 月 1 日, 10 月 13 日, 11 月 10 日, 2020 年 1 月 19 日）を行う.

11　学内研究助成金の受託

1)　学長推薦研究費の交付を受ける(研究課題名：自衛スペクトラム症児を持つ母親の地域への社会参加について)